

ニューオーリンズと三宅島をつなぐ風

～災害に学ぶプロジェクトニュース5月02日号～

一日が本当に短く感じられる毎日です。これまで全員が大きなトラブルもなく順調に迎えられたのは、日米双方において環境を整えていただいたすべての皆さんのおかげだと思います。そして、いよいよ最終日を迎えました。この間訪問させていただいた皆さんともう一度お会いする時間を楽しみに、そして9月に開催される日本でのプログラムができる限り多くの方と、本当に大切なことが共有できるプログラムとして実現できることを期待して、最終日を迎えたいと思います。(坂上)

BCM(Baptist Community Ministries)との交流

BCMは、訪米プログラムの最後の訪問先となった。私にとって昨秋以来の訪問であったが、パイロン・ハレル理事長の前回と変わらぬバイタリティ溢れる発言に圧倒された。

テーマは、ハリケーン「カトリーナ」災害から2年9ヶ月が経過した現在、復興・再生プロセスにおいて、「コアとなっている問題点、およびその対策をどのように考えるのか」「復興に関わる民間協力のあり方についてどうすべきか」と設定し議論に入った。BCM側からは主にカトリーナ前と後との教育問題、住宅問題、官民協力についての変化およびこれらの課題の対策について報告がされた。とりわけ教育問題でのチャータースクールの評価についてその運営を巡り官と民との主導権争いの真最中との見方をしており、改革は道半ばの印象を受けた。

今回の「災害に学ぶ」プロジェクトのニューオーリンズ研修交流を通じ、災害時における官・民・NGOの関係性を教訓化、理論化が被災者や市民にとって有効な支援救済に結び付けていくことが極めて重要であると認識した。

9月の東京プログラムでは、是非、このテーマを地域コミュニティ再生やボランティア活動のあり方とも関連させながら深めていきたい。最後に私のこれまでの経験した海外研修ではいろいろな意味で最もハードであった。参加者の皆さんに本当にお疲れ様でした。

(伊野瀬)

雑感

内容の濃い今回のプロジェクトも本日で最終日を迎えた。これまでの3日間は、フリーマーケットによる地元産業活性化、文化・芸術振興、教育、地域開発、そして住宅開発を各分野で活躍する市民セクターのリーダーの方々との意見交換をすることができた。この最終日は、



今日は朝から夕方まで同じ部屋での意見交換

午前にはバプティスト・コミュニティ・ミニストリー(BCM)に訪問し、午後は今回のプロジェクトに関わって頂いた方々を招いての全体会議を行った。

最終日午前中のBCMのパイロン・ハレル氏は、BCMがこのプロジェクトで訪問した市民セクター機関のいくつかへの助成も行っているため、被災後のニューオーリンズの状況を全体的に捉えることができている数少ない人である、という印象を受けた。時折、軽い皮肉を交えながら、政府のリーダーシップ、行政の実績、民間の活動、NPOや市民の活動などを説明。ボトルネックがどこにあり、何が原因

なのか、どのような対策があるのか、ということ BCMの各担当者へ説明を求めながらハレル氏は説明を行った。全体会議はソフト(おもに被災者感情やリーダーシップ)とハード(住宅開発・政策)に重点を置き、災害時における公的部門および民間・市民社会部門の役割とコミュニティの在り方が議論された。

ハレル氏の説明が被災後のニューオーリンズ社会の全体像を捉えていたので、非常に参考になった。社会を構成する各分野で抱える問題は質・量・内容など大きく異なる。しかし、ハレル氏の説明を聞き、やはり最も重要なことはリーダーシップで、そして、そのリーダーシップを円滑に動かすガバナンスが大切なのだ、ということ強く感じた。今回訪問し意見交換をしたリーダー達は、それぞれ卓越したリーダーシップの持ち主ではあるが、それが社会全体として生かされていない。これを生かすような仕組みをつくるガバナンス機能が欠如している、各リーダーの能力やエネルギーが融合せずに、一か所に留まってしまっている感じが、いわゆる横のつながりが、社会構造上、その上下に位置する政府と市民との間隔に大きな隔たりがあり、それぞれに不満や不信感を持ってしまっているのであろう。政府のガバナンスからすれば、横に広がっている各分野のリーダー達とのコミュニケーションを密にとり、リーダー達が取り組む市民の要望を全体像として把握する努力をすべきであろう。そして、そのリーダー達がより効果的・効率的に市民サポートができるように政府はソフト面、ハード面でインフラを整備することが重要であると感じた。リーダー達は、多忙な日々を送っているとはいえ、ソフト面・ハード面のインフラ整備は、いずれ近い将来に自らの事業にプラスとして跳ね返ってくることを期待できるので、地域社会のガバナンスの発展を支え促す役割が期待される。

自然災害というスケールの大きい出来事を理解すればするほどリーダーシップとガバナンスの大切さが市民社会を復興させ、さらに発展させていく上で重要であると痛感した最終日であった。

最後に、あらためてこのようなプロジェクトに参加する機会を与えてくださった青山先生、フォード財団、ジャパンソサエティーに心から感謝申し上げます。また、本プロジェクト参加者の皆様および本プロジェクトの勉強会等に参加された皆様には大変お世話になりました。ありがとうございました。9月に向けて頑張りましょう!

(雨宮)

< 編集後記 >

「社会には目に見えない大切なものがたくさんある」。子どもでも知っている当たり前のことですよ。でも、改めて気づかされる場面は、やはりあるものです。その気づきには、国や年齢や人種や宗教や、そして知識の量や、年収の多寡は関係ないんですね。そんなことを今回のツアーで感じました。

GAIN や SUCCUSS のためだけではない「何か」を9月の交流で育みたいと切に願って最後の編集後記にしたいと思います。と、まったく編集後記になってませんね。でも本当にそう思うんです。いつも原稿を時間までに持ってきてくださった訪米団の皆さんに感謝いたします。(福田)